

水泳**ここが変わる・新学習指導要領****1本柱から2本柱へ****「命を守る水泳」の新設**

元愛媛県公立小学校教員 日本水泳・水中運動学会々員 鈴木 智光

1. 大変革の学習指導要領改訂

今回の学習指導要領改訂、水泳運動においては大変革である。2本目の柱「命を守る水泳」が新設となったからである。

しかし「2本目の柱、命を守る水泳と言うが学習指導要領をいくら読んでも2本目の柱が見えてこない」と思われる先生方がいらっしやるのではないだろうか。

確かに「命を守る水泳」という言葉は学習指導要領にはない。

関連あるとすれば新設の「安全確保につながる運動」である。それも高学年だけである。低・中学年には「命を守る」どころか「安全確保」という言葉すら見当たらない。

それなのになぜ「命を守る水泳」が2本目の柱として新しく採り入れられたと言うのであろうか。

じつは水泳をどのような視点から捉えるかで学習指導要領が目指す水泳の姿が違って見えてくる。

これまでの学習指導要領では「プールの端から端まで泳いで移動する力」をつけることが目標だった。

今日では水泳学習と言えばプールで行うことが当然のようにになっているが、プールが整備される昭和30年代以前は自然の水辺環境で行っていた。そのため自然の水辺環境に適応する力をつけること、海や川で溺れないようにするということが当然のことだった。

今回の学習指導要領改訂の背景には水泳

学習の本来の目的を目指す意図（視点）が感じられる。

参考となるのは1999年文部省から発行された『学校における水泳事故防止必携』である。プールを主体とした水泳学習の課題が指摘されている。（以下引用）

今日のプールを主体とした水泳学習は、指導効率を高めて児童生徒等の水泳技能の向上に著しく貢献した。しかしながら、そこで獲得した水泳技能は、あくまでもコントロールされた水域での技能に留まり、波や流れ、また多様に変化する環境に対応しうる技能にまでには育成できていない。本来の水域である海・河川・湖沼等の自然環境（水辺）について理解を深めながら、プールで獲得した水泳技能を基礎として応用的・発展的に活動を進歩させるとともに、安全の限界について認識する機会を与えることは、「生きる力」の育成をはじめとするこれからの教育として望まれている内容にふさわしいものであるとともに、学習者の意欲と興味を喚起させる上でも期待できる。加えて、プール（学校）以外での水泳事故防止にまで配慮が行き届いてこそ初めて学校における教育の成果が完成するものといえる。（中略） プールで身に付けた泳力と自己保全能力を基礎的・基本的な資質として、豊かな自然に親しみながら展開される各種の水辺活動の中から、自らが選択したマリンスポーツを生涯スポーツとして実践する上にも役立つような知識と技能と態度の形成にまで視野を広げた水泳教育が望まれる。

（下線 筆者）

2. 構造図にすることで2本柱が見える

旧「浮く・もぐる遊び」が「もぐる・浮く運動遊び」に変わった。その理由を考えても2本柱になった背景が見えてくる。「もぐる」

を先に持ってくることで水面上の活動だけでなく深さのある水中での活動を想定している。「深いところで活動できる＝命を守る力」だからである。

なお2本柱をはっきりと見えるようにするには構造図にすることをお勧めする。

以下に紹介した構造図には2本の柱を結合して「呼吸」を入れている。呼吸に関する記載を拾い上げながら読んでいけば今回の学習指導要領がいかに関呼吸力を中核に位置付けているかが自然に見えてくることだろう。

水泳運動の全体構造図			
		呼吸	
		(低学年) もぐる・浮く運動遊び (中学年) もぐる・浮く運動 (高学年) 安全確保につながる運動 (水中で全方向に活動する)	(低学年) 水の中を移動する運動遊び (中学年) 浮いて進む運動 (高学年) クロール・平泳ぎ・(背泳) (水面上を泳いで移動する)
低学年 (水遊び)	目指す技能	息を止めたり吐いたりしながら、様々な姿勢で水にもぐったり浮いたりする。	水につかって歩いたり走ったりする。
	技能を習得するためのメニュー	<ul style="list-style-type: none"> 水中じゃんけん 水中にらめっこ 石拾い、輪くぐり (足からの)落水遊び くらげ浮き、伏し浮き、大の字浮き らっこ浮き(ビート板、ヘルパー等使用) ぶかぶか浮き(ライフジャケット使用) 	<ul style="list-style-type: none"> 水かけっこ 動物まねっこ遊び 電車ごっこ、リレー遊び、鬼遊び
中学年 (水泳運動)	目指す技能	息を止めたり吐いたりしながら、いろいろなもぐり方や浮き方をする。 ※水中でいろいろな姿勢になる。	呼吸を調整する。 ・浮いて呼吸をしながら手や足を使う。 ・手や足の動きと呼吸のタイミングを合わせる。
	技能を習得するためのメニュー	<ul style="list-style-type: none"> 落水体験 プールの底タッチ 股くぐり 変身もぐり 変身浮き 背浮き、だるま浮き 	<ul style="list-style-type: none"> バブリング ポビング 背浮き ちょうちょう背泳ぎ 連続だるま浮き
高学年 (水泳運動)	目指す技能	背浮きや浮き沈みをしながら続けて長く浮く。	呼吸を長く続ける。
	技能を習得するためのメニュー	<ul style="list-style-type: none"> 背浮き 浮漂力 浮き沈み＝連続だるま浮き 浮沈力 落水体験 着衣泳 	<ul style="list-style-type: none"> ゆったりとした呼吸の背浮き ゆったりとした呼吸の連続だるま浮き